質問一覧

	質問先	質問内容	回答	質問者
1	橋本さん	６次産業化には新たな製品化などのアイデアが必要で、高校生などの参画の事例をお聞きしましたが、各食品メーカーも苦労していると思いますが、ヒントありますか？	僕が気をつけている事は出口先（販売先）を決めてから商品化を行うようにしています。食品メーカー側も生産者側も販路は一番の悩みどころです。まずは販路を見つけたり、出口先も巻き込みながら商品開発をする事をお勧めします。	多文化ふらっと 理事　金谷氏
2	いくPAの農園	借地料など、主な運営費用の内訳を教えてください。困っていること、課題は何でしょうか？	農園だけの賃料ではなく、いくのパーク全体として大阪市に賃料を支払っています。月額437,800円になります。それ以外のすべての施設の維持管理費等についても民間事業者が負担しています。いくPAの農園の維持運営のための作業・業務をサポートしていただけるボランティアの方を募集しています。	
3	筒井さん	米づくりは無農薬は大変、ムリとのことですが、どういう方法がありますか？米は今後どうなりますか？	完璧にはかなり困難だと思います。周りの農家さんの理解や協力も必要ですが、自分が農薬類を使用しない事は可能です。 ポイントは、害虫対策、雑草対策、ウンカ対策。 ①田植え時の2週間、ジャンボタニシから、小さな苗を農薬無しで守ることです。浅水管理して、タニシの移動を抑えて苗の成長を待ちます。有る程度伸びたら稲の勝ちです。後は、タニシが他の水草を食べてくれます。 ②雑草対策として、早めに「ひえ」と言う強い雑草など見つけ次第手で取り除く。または、田植え時に苗の条間隔を広めにとって、手押しの雑草取りの道具で小さな水草を取る作業です。 ③稲刈り前のウンカ。これは中国から台風や偏西風に乗ってやってきますので、防ぎようはありません。最小限の予防薬を苗の時に撒くものも有りますが、株間隔を広めに植えて、風通しを良くする事。株元をこまめに観察して対処することです。天候不順でも苦労します。 ※稲は野菜作りにも多いに貢献してくれますので、私は、米作りは素晴らしい有機野菜作りに、欠かせないものだと思っています。	
4	全員	障がいを持っている人が活躍できる取り組みを教えてください。	（ソラニワ・中川氏）人にはそれぞれ凸凹（得意なところと、そうでないところ）があります。障害のある方でも得意なこと、健常の人なら1日持たず飽きてしまうかもしれないことを同じ作業を集中してできるなどの特性のあるかたもいます。農にまつわる作業の作業分解を行い、それぞれの方の特性を見て、活躍できる場をつくる。農福連携がうまくいっている福祉事業所さんはそれが長けているところが多いと感じます。 （農産物加工協会・橋本氏）農福連携コンソーシアムという組織があります。この組織では農福事業者や農福に取組んでいる人たちの交流も盛んに行われています。農福連携コンソーシアムに参画するのも良い方法だと思います。	
5	全員	大阪市は地域柄「地産地消」できると思う。有機栽培で作った農産物を学校給食で使えるようにしてはどうか。	（事務局）学校給食に利用できる食材については、厳しい品質規格をクリアし、かつ、かなりの規模の生産量が必要となってきます。実現にはさまざまな課題がありますが、このような声があることは本市の給食担当に共有いたします。	
6	全員	今日の情報はまったく知らなかった。富田林の農家さん、難波神社の取組など興味あります。もっとこんな「機会」を作って下さい。	（事務局）農業に関連した情報を積極的に発信できるよう、今後もさまざまなイベントを検討していきます。	